

# いずれは「文化の西東京市」に!

高橋宏幸さん(田無町在住)

このまちには40年くらい前から住んでいて、児童書の出版や絵本作成の指導に携わり、50歳になってからは、自分でも絵本や児童書を書くようになりました。自分の住むまちについて、それまでは特に意識したことはなかったのですが、十

数年前に、ひよんなことから郷土かるたの作成にかかわるようになり、なかなか歴史があつて面白いまちだと感じるようになりまして。今、全国的にお母さんたちの間で手づくり絵本が盛んなんです。全国的に盛ん

になったのはここ10年くらいのことですが、田無での手づくり絵本の歴史は古く、私はここを手づくり絵本発祥の地と考えています。現在もいくつかの手づくり絵本のサークルが積極的に活動していて、田無は手づくり絵本のメッカと呼ぶにふさわしいまちだと思います。

一方保谷は、児童文学作家の坪田譲治さんが弟子を育てた地であり、また、現在も何人かの児童文学作家が活動しています。西東京市は、これら手づくり絵本や児童文学を特色として、いずれは文化の西東京市と呼ばれるくらいに成長して欲しいと願っています。

# このまち、人が好き

今野・ルート・マイヤー・エリザベスさん(泉町在住)

ここに住んで20年。日常生活の多くの用が足り、都心に近く便利だけではないわ、畑が残り、庭先販売で新鮮な野菜が買えるところもこのまちの大きな魅力ね。近所にはお寺や神社があり、静かな雰囲気、和気あいあいとした商店街もあり、路地にはいろいろな発見があります。畑と畑の間の風も心地よく、都心の勤めから帰った夫も「ほつ」とする、とお気に入りですよ。

これからさらに、今後このまちを作っていく子どもたちのために、すてきな学校にしたいです。心に余裕が出来るよう

なスペースや環境の中で、自分を強くもてるような教育が進められるといいわ。仕事柄小さなお子さんを持つお母さんと接する機会も多く、子育てをサポートする必要性も感じています。子どもたちは宝よ! 母国のスイスも日本も、もつとよく

なっていないから、いいことあるし、これからよくなるのではないか。いいペンには無理でも少しづつ。西東

# こんにちは! 西東京市民です

## 21世紀の新しいまち西東京市の皆さんにお聞きしました

### 仲良し3人きょうだい (東町在住)

・佐原麻衣子さん (中学校2年生) 将来はミュージカルスターになりたい。だからお芝居のワークショップが大好き。西東京市のイメージカラーはピンク、桜とかの花がいっぱい咲くといから。

・佐原大介くん (小学校4年生) プロ野球選手になってセンターを守るのが夢。プロ野球が無料で見られる野球場があつて、オンライン(大好きな野球チームのカラー!)が似合うまちになって欲しいんだ。

・佐原慶祐くん (幼稚園年長組・6歳) ブロックとお友だちとかけ回って遊ぶことが大好き。最近ママに教えてもらって手話の歌も覚えたの。大きくなったら、おまわりさんか消防士になりたい。でも、一番になりたいのはタイムレンジャー!

毎朝、障害を持つ人の自立訓練の場であるグループホームから、市内の職場まで通っています。知的障害4度という障害によって、資格や免許がないことや学歴の壁にも負けずに探し続けます。自分たちで意見を出し

合いプログラムを作る手応えと、何でも相談できる仲間がいることがうれしいです。障害を持ちながら親と離れて働くことは、不安や焦りでストレスもたまります。自分のふがいなさに悔し涙を流すこともありま

白田賢司さん(中町在住)

### ただいま子育て真っ最中!

手塚葉子さん・蒼太くん(向台町在住)

向台町には独身のころから住んでいますので、10年近くになります。この付近は昔から緑が多くて、とてもいい環境ですね。短大を卒業して結婚後も

続けてきた仕事を、子どもができたことを機にやめ、育児に専念してきました。今はまだ子育てにばかりですが、子どもにべつたりの今の状況に満足してい

るんです。10年以上仕事をしていたので、育児が落ち着いたら、また新しい仕事に就きたいという希望はあります。女性が家庭に入った後でも、社会復帰できるような社会の体制がきちんできていればいいですね。子どもができてからは、独身のころと違って、特に環境のことや教育のことに意識がいくようになったので、新しい市に対しても、住みやすいまちとして、生活環境、教育環境が保たれるよう期待しています。西東京という名前って、とてもスケールが大きいんですよね。だから、名前と同じように、スケールの大きな市になってほしいなと思っています。